

在学生 Special interview



現代ビジネス学科 地域ビジネス専攻 3年
杉岡 千佳さん 兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校出身

私らしい目線で集客につながる仕組みを。

私は、高砂銀座商店街の活性化に取り組んでいます。高砂に住む親戚でさえ詳しく知らないと言うこの商店街。まずは現地のことを知る必要があると感じ、約30年前の地図を手がかりに、現在の出店状況を調査しました。高砂にはレトロな雰囲気、建物や指定重要文化財など、若い人にとって新鮮に感じるものが眠っているんです。それらの要素をどう活性化につなげるかがポイントですね。

先日、集客を目的とした朝ご飯&手作り雑貨市イベント「朝ごはん市」が開催されました。私は「高砂染め体験イベント」のスタッフとして参加。朝ごはん市は月イチ開催なので、次回は企画段階から参加したいです。目標は継続して集客できる仕

組みをつくって商店街全体の発展につなげ、「ありがとう」と言われること。こういう機会がいただけるってうれしいですし、自信になります！



次世代のビジネスリーダーを育成する3つの専攻



グローバルビジネス専攻

企業経営や国際ビジネスの基礎知識や語学力、マナーなどを習得。グローバルな視点でものごとをとらえられる幅広い視野と洞察力を養います。



地域ビジネス専攻

経済・経営学の基礎知識を学習しながら、実際に地域を訪れて課題の発見・分析・解決のプロセスを体験。地域活性化のノウハウを習得します。



公共政策専攻

地域やビジネスの現場での学びを通して、公的機関や社会起業家といった立場から地域の諸課題を発見・分析し、解決へ導く力を養います。

予想される進路 ※現代ビジネス学科は、2019年度に第1期卒業生を輩出します。

グローバルビジネス専攻

企業の海外部門/外資系企業/ホテル/旅行/観光会社/NGO職員など

地域ビジネス専攻

観光業界/地域金融機関/会社経営者/農業法人職員/NPO職員/大学院進学など

公共政策専攻

県庁・市町村等の公務員/警察官/消防官/教員/一般企業/NPO職員/社会起業家など

取得可能な資格・免許

- 高等学級教諭一種免許状「公民」「商業」
 - 上級秘書士・上級秘書士(国際秘書) ●上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士(国際ビジネス) ●上級情報処理士
- *ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開講時期が変更となる可能性があります。

お問い合わせ先 入学部 入学課

〒675-0195 兵庫県加古川市平岡町新在家2301
Tel:079-427-1116 E-mail:info@hyogo-dai.ac.jp

最新情報はHPをチェック!

兵庫大学 受験生応援サイト

※機種によっては読み取れない場合があります。



ありがとうのプロフェッショナルへ。
兵庫大学

現代ビジネス学科

Department of Contemporary Economic Studies

自分の選んだ地域で ビジネスに 取り組む魅力とは

— 地場産業の活性化をデザインする —



現代ビジネス学科
Special Interview

TSUGI 代表/
デザインディレクター
新山 直広さん

現代ビジネス学科
Special Interview

地域に根ざす資源や産業を 新たな視点で未来に活かす

町の人たちと共に地域を活性化させる事業を考え、地域の課題を解決できる人材を育てる現代ビジネス学科。眼鏡や漆器の産地として知られる福井県鯖江市にて町と深く関わりながら活躍されている新山さんに地域ビジネスについてお聞きしました。

新山さんのお仕事をご紹介します



SAVA! STORE

「鯖江産のいいもの」を多くの人に知ってもらうことを目的に、若手職人やデザイナーが制作したプロダクトを一堂に集めたポップアップストアをプロデュース。



RENEW

鯖江市河和田地区で開催される体感型のマーケット。普段は入ることができない工房を開放して、ものづくりの背景を知ってもらい、購入につなげるのが狙い。



Sur(サー)

眼鏡パーツの制作工程で発生する端材を活用したいという相談を受けて、眼鏡素材を使ったアクセサリブランドを立ち上げる。植物由来の樹脂なので肌にやさしい。

移住者がどのように 地域になじみ、 可能性を引き出すか

2015年、TSUGI(ツギ)という地方に特化したデザインの合同会社を立ち上げました。単にデザインをするだけではなく、販路を持たない発注者には「売り方」まで考えてフィードバックするという業務を請け負っています。

拠点にしている福井県鯖江市は、眼鏡や漆器などの地場産業があつまるところ。この町に関わったきっかけは、大学生のときに参加した「河和田アートキャンプ」というイベントです。学生時代は建築分野を専攻していましたが、不景気で新築住宅の着工数が少なく、建築に未来を感じていませんでした。「新しいものをつくるより、今あるものをどう活用するか」という考え方が主流になる。そこで、可能性を秘めているのは「地方」だと感じ、卒業と同時に河和田へ向かいました。

移住したての頃は、アートキャンプの運営や漆器の産業調査をして働きました。移住者がいきなり何かをすることはできないので、まずは地域になじむことを最優先にしました。信頼してもらうまでにかかった時間は4年。年配の職人さんたちにはとてもかわいがってもらいました。

ただ、職人さんたちの言う通り



でいるのには違和感がありました。若い世代は「10年後、この町の産業はどうなっているのか」と不安を募らせるばかり。そこで、若手の職人たちと共に「サークル活動」としてTSUGIをスタートさせました。ワークショップの開催などを通じて同じ想いを持った仲間を発掘し、新たな潮流が生まれました。そしてTSUGIを「会社」にするまでに至ります。しかしその反対側では、僕たちを良く思わない人たちもいたのです。

時間をかけて、 お互いのやりたいことを すり合わせていく

「こんなやり方、河和田じゃない」。職人さんたちはそう感じていたようです。お世話になった人とも疎遠になり、ショックでした。行政は「地方創生」などと推進していますが、地方自体の受け入れ態勢が出来ていないと成り立ちません。地方には地方の当たり前が存在す

るのに、それを勝手に破壊するのはもってのほか。時間をかけてお互いのやりたいことをすり合わせていく必要がありました。僕たちにはアイデアや勢いがありますが、地域とのつながりや経験といったものはありません。そこは、地域の方にフォローしてもらわなければならないのです。

応援してくれる人を巻き込みながら、デザインによって地域が抱えている課題を解決しました。僕たちが見ようとしていることへの理解は、今、少しずつ広まってきていると感じます。

TSUGIは「創造的な産地をつくる」というビジョンをかかげています。つまり、自分で考えて行動できる産地にするということです。それが叶うと、産業や地域そのものが活性化するはず。次世代を見据えてしっかりと雇用を創り出し、若い人たちが住みたいと思えるような河和田を「継ぎ」ゆく存在になる。僕たちは地域の運命共同体として、これからも河和田と向き合っていきたいと思っています。



新山さんが教える学生時代に学んでおきたい POINT

積極的に地域の人と コミュニケーションをとろう!

地域が持つ「当たり前」を壊さないように、そこに住む人たちとコミュニケーションを重ねながらやりたいことを発信していける力を身につけることが必要だと思います。そのためにも、学生時代から積極的に地域へ出て、地域の人と交流する機会を持つことがポイントですね。

▶ 現代ビジネス学科ではこんな学びを展開!



現代ビジネス学科では実際に企業や地域に赴き、課題を解決する力を身につける「プロジェクト型実習」を実施しています。